

高知県立消費生活センター

地域見守り情報



第92号

安くなってない！？光回線サービスの乗り換えは慎重に

最近、「プロバイダ契約と光回線契約を一つにまとめたら料金が安くなると言われ契約したのに、請求を見ると以前より高額になっていた」や「勧誘時に大手通信事業者を名乗っていたから契約したのに、実際は違っていた」という相談が相次いでいます。

【県内事例】

大手通信会社を名乗り「光コラボにすると今のプロバイダ契約より料金が安くなる。変更しないか」と勧誘された。内容が理解できないまま契約し、後日届く書面に記載されている番号をパソコンに入力するよう指示されたが、よくわからなかったので設定はせずに放置していた。その後請求書が届いたが、安くなっていなかった。今は前に契約したプロバイダを使用していて、二重契約になっていると思われる。現在の自分の契約がどうなっているのかよく分からず不安。解約して元の契約に戻すことは可能か。 (10代 男性)

アドバイス

光コラボこと「光コラボレーションモデル」とは、2015年2月にNTT東日本・西日本が始めた光回線の「卸売」を受けて、各事業者が自社のサービス（携帯電話やプロバイダなど）と卸売を受けた光回線をセットで販売する新しいビジネスモデルです。これにより消費者は、例えばプロバイダ事業者の提供する光コラボに乗り換えて、回線料金とプロバイダ料金を一つにまとめたり、サービスの窓口を一本化することが出来るようになりました。

しかし、光コラボで必ずしも安くなるとは限りませんし、これまで契約していたプロバイダ事業者から別のプロバイダ事業者が提供する光コラボに乗り換えた場合などに、今までのメールアドレスが利用できなくなったり、前のプロバイダ契約の解約料が発生することもあります。

「安くなる」と勧誘されても、その場で判断せず、サービス内容や契約条件を十分確認し、現在の自分の契約内容と比較して慎重に判断しましょう。

わからないことや困ったことがあれば消費生活センターにご相談ください。



©KANAGAWA2013

☎ 高知県立消費生活センター 088-824-0999